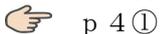


## 育ちをつなぐ～園と小学校との協働による円滑な接続の推進～

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続のためには、一方が他方に合わせるのではなく、まずは、その時期の子どもの発達を踏まえてそれぞれの教育を充実させることが大切です。その上で、園では育ちや学びがどのように小学校教育につながっているのか、小学校では今の学習につながる園での育ちや学びはどのようなものなのかを確認し合いながら教育活動を進めていきます。双方の教育についての理解を深め、子どもの育ちや学びをつなぐために協働して連携内容の充実を図っていくことが大切です。

### 円滑な接続に向けた幼小連携の取組

月	連携の内容	園	小学校
4	<input type="checkbox"/> 連携計画の作成 ・ 連携組織及び内容の確認 ・ 育てたい子どもの姿についての協議  p 4 ①	・ 園長他担当職員 (全職員と共有)	・ 校長他担当職員 (全職員と共有)
5	<input type="checkbox"/> スタートカリキュラムで学ぶ姿の参観及び協議 ・ 子どもの姿で見るスタートカリキュラム改善のための協議	・ 担当職員	・ 1年担任、担当職員 
6	<input type="checkbox"/> 保育・授業参観、研究協議会への参加	・ 参加職員	・ 参加職員
7	子ども理解を深めるための情報交換やミニ参観等、継続的な連携 (全職員) (例) 幼児期の遊びの経験についての聞き取り		
12	物的・人的環境を生かした取組の情報交換 等 		
	<input type="checkbox"/> 小学校や園での交流活動	・ 5歳児担任	・ 担当学年職員
1	<input type="checkbox"/> 一日入学		
7	<input type="checkbox"/> スタートカリキュラム作成に向けた子どもの育ちの共有	・ 5歳児担任、担当職員	・ 1年担任、担当職員
3	<input type="checkbox"/> 連携体制や内容についての評価・改善	・ 全職員	・ 全職員

小学校区で協議した育てたい子どもの姿を基に、年間を通して計画的に連携を進めていくことが重要です。また、保育・授業参観で「育みたい資質・能力」や「\*幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに協議することで、双方の教育についての理解が更に深まり、その後の幼小連絡協議会やスタートカリキュラム等の協議内容の充実につながることが期待されます。その実現のためには、それぞれの取組内容の関連を考慮し、園・小学校が協働して計画的・継続的に進めていく必要があります。

\*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については『幼稚園教育要領解説』p 50～p 73参照

### 資質・能力をつなぐ幼小連携の取組のポイント

園と小学校が協働して取り組みたいこと

接続期の学びの連続性を支える教職員の連携 (幼小連絡協議会、保育・授業参観で)

- ・ 子どもの実態を踏まえた育てたい子どもの姿や指導の重点の共有
- ・ 保育・授業研究会への参加による教育内容の相互理解
- ・ 「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした子どもの育ちの共有  p 4 ②

双方に互恵性のある「児童と幼児の交流活動」

- ・ 幼小それぞれのねらいを明確にし、子どもの育ちを生かした活動の実施

子どもの育ちをつなぐスタートカリキュラムの作成及び改善

- ・ 園：個や集団の発達、経験に応じた育ちを支える環境の構成や保育者の援助についての伝達
- ・ 小：学習内容を見通し、育ちをつなぎ、生かすための具体的な場面についての園からの聞き取り
- ・ スタートカリキュラム実施期間中の授業参観及びスタートカリキュラム改善のための協議

## 幼保関連事業

月 日	事業名	対象	会場
7月27日 (木)	就学前・小学校等 南地区合同研修会	美郷町、湯沢市、羽後町、東成瀬村の 小学校教員、就学前教育施設教職員等	美郷町中央ふれあい館

## 資質・能力をつなぎ、生かす取組の実例

### ① 育てたい子どもの姿についての協議

園：5歳児で育成を目指す子どもの姿<例>

- ・明るく伸び伸びと活動し、必要な習慣や態度を身に付けようとする子ども
  - ・共通の目的に向かって、友達と協力して活動に取り組む子ども
  - ・自然や身近な事象に関心をもち、自分なりに考えたり、気付いたりしたことを表現しようとする子ども
- (自園の5歳児年間指導計画から)

小：スタートカリキュラム実施時期における育成を目指す子どもの姿<例>

- ・安心して自分を発揮できる子ども
  - ・みんなと楽しみながら関わり、好奇心をもつ子ども
  - ・自分の考えをもち、学びに夢中になる子ども
- (自校のスタートカリキュラムから)



### 実際の協議<例>

小：それぞれの育成を目指す子どもの姿から、「自己発揮」「友達と協力」「考える」などがキーワードになりそうです。

園：「自己発揮」については、園では一人一人の実態に応じた環境の構成を図るなどし、子どもが安心して遊び込むことができるように配慮しています。

小：学校では、子どもたちへ指示等を一斉に伝える場面が多くなりますが、一人一人の子どもの実態をよく理解することや、伝え方の工夫をしていくことが必要だと感じました。園で育まれてきた力を安心して発揮する機会をもつことで、その後の学校生活や学習への意欲が高まると思います。「自己発揮」できる子どもについて園での様子をもう少し教えてください。

園：例えば、ドッジボールの際に子どもたちで作戦会議をしながら遊びを進めたり、製作活動をする場所の呼び名を考え、名付けたりするなど、自ら考え行動する姿を支えてきました。

小：そのような取組は、小学校でも取り入れたり、工夫したりすることができそうです。園と小学校が一緒になって自己発揮することができる子どもを育てていきましょう。

小：続いて、「友達と協力」について・・・

### ② 「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとした子どもの育ちの共有

子どもの発達や学びの連続性を確保するには、園と小学校で子どもの成長をお互いに理解することが大切です。遊びを通して発達するとはどのようなことなのか、具体的な子どもの姿をイメージするために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにしていきます。



**保育参観時に見られた子どもの姿<例>** ※下線は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連坂道のコースを利用し、数人でビー玉を転がして遊んでいる。最初は一人一人で遊んでいたが、どのようにするとビー玉がねらったところに到着するのかを友達と競うようになる。その後、ビー玉が到着する場所によって点数を付けてみたらどうかと友達と意見交換を始める。どの場所を何点にするのかについて話し出す子どもに対して、周りの友達が同意したり、新たな意見を加えたりしながら話合いを進めている。より楽しくなるように協力しながら遊びを進める姿が見られた。

### 実際の協議<例>

園：「友達と考えを出し合いながら協力して遊びを進める」がねらいでしたが、今日の子どもの姿を見てどのような育ちや学びがあると感じましたか。

小：遊びの過程で、考えたことを言葉で伝え合ったり新しい考えを生み出したりと、「言葉による伝え合い」や「思考力の芽生え」等につながる様々な姿が見られました。また、友達の考えを聞き、自分の考えと比べ、協力してよりよいものを作り上げようとする姿から、「協同性」に関する「目的の実現に向けて考えたり、協力したりする姿」が見られました。このことから、遊びの中で様々な力が一体的に育まれていることを感じました。

#### →「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの姿を見取った意見

これまでの保育実践の中で、大切にしてきたことを教えてください。

園：保育者が遊びの過程を見取りながら、子どもの意見をよく聞き、思いや考えを引き出すことにより、子どもが自らの言葉で伝えようとする意欲を高めてきました。また、友達同士で話合いを進める場面では、子どもの実態に応じて話合いをコーディネートするとともに、自分たちで話合いを進めることができた時は大いに認めてきました。

#### →これまでの育ちの見取りや保育者の意図的な関わり

小：園で子どもの具体的な姿を捉え、価値付けていることがよく分かりました。小学校でも目的に向かって友達と協力したり、様々な意見交換をしたりする場面があります。私たちも園の取組を参考にし、実践に生かしていきたいです。→小学校へのつながりを考慮